

# メスプニュース 第4弾!

## 今回のテーマ HPVワクチン

2009年10月に、厚生労働省が“HPV（ヒトパピローマウィルス）ワクチン”を承認しました。

HPVとは、子宮頸がんや尖圭コンジローマ（良性のイボのようなもの）の発症の最大リスク要因となるウィルスです。今回承認されたワクチンは、これらの疾患の発症を予防するワクチンです。

### 《HPV》

- 性交渉により感染し、女性の約8割が生涯に一度は感染する
- 感染してもほとんどが2～3年で自然に排除される
- 感染からがんになるまで5～10年の期間がある
- HPVは感染を予防すれば防げる

### 《子宮頸がん》

- ほとんどが、HPV感染により発症
- 年間約7,000名が子宮頸がんと診断され、約2,500名が亡くなっている
- 最近では、若い年齢層での発症が問題となっている
- 20～30歳代の罹患は乳がんより多い
- 予備軍である「前がん病変」はさらに増えており、検診ではこの段階で診断付くことが多い

### 悪性新生物年齢階級別・部位別・性別死亡率 順位

死因	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54
1	白血病	胃	乳房	乳房	乳房	乳房	乳房
2	胃	白血病	子宮	胃	胃	胃	胃
3	卵巣	乳房	胃	子宮	子宮	子宮	結腸
4	子宮	子宮	白血病	卵巣	卵巣	卵巣	子宮
5	乳房	卵巣	卵巣	結腸	結腸	肺	肺

\* 全年齢では子宮がんは第8位

平成15(2003)年厚生労働省大臣官房統計情報部「人口動態統計」より

### 《HPVワクチンの効能》

- HPVには、100種類もの種類があり、今回承認されたワクチンは「6・11・16・18型」のウィルスに対して効果がある
- 欧米では、子宮頸がんの高リスクとして「16型」次いで「18型」が多く、日本では、子宮頸がんの高リスクは「16型」次いで「33型・58型」の方が「18型」より多い。
- 尖圭コンジローマは、欧米・日本共に「6型・11型」が多い

### 《問題点》

- \* ワクチンの誘導する抗体は、特異性が高いため「6・11・16・18型」にのみ有効で、他の型のHPV感染阻止は全く期待できない点・・・日本で16型について多い「33・58型」には効果が無い
- \* ワクチンは感染を防ぐのではなく、発症を防ぐ効果があるので、既に感染し細胞が潜伏状態にある場合、排除が難しい。感染そのものを防ぐ必要がある
- \* 治療・再発防止の効果は無いので、接種後も定期的な検診が必要

## ● 郵送検診のシステム

